

菅田中学校だより

第2号 令和8年(2026) 5月

横浜市立菅田中学校

「互いを認め合い、夢をつくる」 <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/sugeta/>

桜咲く4月から若葉のころ5月へ

副校長 宇津 俊雄

春に 谷川 俊太郎

この気もちはなんだろう/目に見えないエネルギーの流れが/大地からあしのうらを伝わって/
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ/声にならないさけびとなってこみあげる/この気もちはなんだろう/
枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく/よろこびだ しかしかなしみでもある/
いらだちだ しかもやさしさがある/あこがれだ そしていかりがかくれている/心のダムにせきとめられ/
よどみ渦まきせめぎあい/いまあふれようとする/この気もちはなんだろう (以下、略)

以前、国語の教科書に載っていた谷川俊太郎(1931~2024)の「春に」という詩の一節です。

1年生のはじめに学習する「朝のリレー」の作者も谷川俊太郎さんですので、みなさんにはおなじみの詩人ではないかと思います。私が国語の授業を担当していた頃、授業開きが終わって最初の授業で学習したのが「春に」でした。

「この気もちはなんだろう 目に見えないエネルギーの流れが 大地から足の裏を伝わって」

「この気もちはなんだろう ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ 声にならないさけびとなって こみあげる この気もちはなんだろう」

春を迎えると新しい生活が始まり、それに伴う気持ちの変化があります。「よろこびだ しかしかなしみでもある」「いらだちだ しかしやさしさがある」「あこがれだ そしていかりがかくれている」と、自分でもよく分からなくなってしまうようなさまざまな気もちがわきあがってくるのが「春」という季節です。「目に見えないエネルギーの流れが 大地からあしのうらを伝わって」くるかのように見えないエネルギーに突き動かされるのが「春」なのだ。

みなさん一人ひとりの中に、これだけの大きなエネルギーが生まれているため、知らず知らずのうちに無理をしていることも少なくありません。桜咲く4月から若葉のころ5月へと季節が移っていく今は、自分の心や身体の見えない変化を敏感に感じとっていく必要があります。ちょっと疲れたなどが、きついかもしれないなど思うときには、立ち止まってひと息つくことも大切です。一人では解決できない気もちのモヤモヤや悩みなど、周りの人に打ち明けるだけでも気もちが楽になることがあります。菅田中学校の先生方は、生徒のみなさんの話を聴き、一緒に解決の方向に向けて考えていきます。心と気もちの変化が大きい春、特に丁寧に自分と付き合っていけるようにしていきましょう。本年度も教職員全員で菅中生の成長を支援し、応援してまいります。この一年も菅田中学校をどうぞよろしくお願いいたします。

ちなみにですが、「春に」の詩にはメロディがついて合唱曲にもなっています。春のあたたかさや麗しさを感じさせる旋律です。機会があれば、合唱曲もぜひ聴いてみてください。